

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	フェリッサエム			
○保護者評価実施期間	2025年12月13日		～	2026年3月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2026年3月1日		～	2026年3月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	2025年9月20日		～	2026年3月25日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援と保育所等訪問支援の多機能型事業所であり、児童発達支援をご利用のお子さまを対象として訪問支援を実施している。事業所で詳細にお子さまの状況を把握したうえで支援を実施するため、園での困りごとに対しても、お子さまの特性を詳細に整理して対応策を具とすることができると考えている。	家庭や、保育施設、事業所のそれぞれの環境でのお子さまの様子を共有することで、初めてお子さまのことを細かく知ることができる。ということを保護者や現場の先生と共有し、できるだけ各環境での様子については細かく共有するように意識して取り組んでいる。 事業所を利用していたお子さんを対象に、就学後も訪問支援を期間限定で行っており、就学児の環境変化に対してお子さまが安心して過ごせるよう支援を行っている。	園で行っている活動を、事業所でも行ってみることで、環境の変化でお子さまの行動がどのように変化するかなど、施設間を跨いで子どもを見る視点を共有することで、より施設間の連携が取れた支援につながると考えている。
2	作業療法士が訪問支援員を担当することで、現場の先生方とは違った視点から子どものことを観察・分析することができる。また、それぞれの観察の視点を共有することで、より子どもの特性を詳細に把握することができると考えている。	先生方のお子さまの捉え方、専門職としてのお子さまの捉え方、それぞれの視点をしっかり共有するところから意識して取り組んでいる。その上で、お子さまの抱えている課題は何か、どう対応したらよいかについて「一緒に考える」ということを意識して取り組んでいる。	幅広い知識をつけるよう日々研鑽することで、様々な困りごとの整理や、対策の検討に対して、より詳細に対応できるように取り組んでいく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員として対応できるのが、事業所としては現在1名のみになるため、急な予定変更等に対して、柔軟に対応することが困難な場合があり、希望があっても訪問支援を受けられないことがある。	児童発達支援の人員状況においては、事業所内の業務フォローに入る必要性も出てきてしまう。また、訪問支援員の人員が1名のみしかいないため、やはり急な変更には対応が難しいことが要因として挙げられる。	人員にゆとりが持てるように、人員配置の見直しが必要。予備日も含めて、確実に支援が行えるように日程調整を行っていく。
2			
3			